

デジタル人材につながる尾花沢市内小・中学校で育成を目指す「情報活用能力」

平成29年度改訂学習指導要領「情報活用能力」を「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、その育成のために必要なICT環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の一層の充実を図ることとした

課題を解決したり、新たな価値を創造したりするために必要な情報を収集し、それらの情報を活用しながら、他者と協働して行われる学習活動の充実

- 尾花沢市の児童の実情
R4全国学力・学習状況調査
- 授業でICT機器を週3回以上使っている児童の割合が低い。
 - 1日当たり30分以上ICT機器を、勉強のために使っている児童の割合が低い。

ICTを活用した学習場面

A 一斉学習		B 個別学習			C 協働学習				
A1 教員による教材の提示  画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用	B1 個に応じた学習  一人一人の習熟の程度等に応じた学習	B2 調査活動  インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録	B3 思考を深める学習  シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習	B4 表現・制作  マルチメディアを用いた資料、作品の制作	B5 家庭学習  情報端末の持ち帰りによる家庭学習	C1 発表や話し合い  グループや学級全体での発表・話し合い	C2 協働での意見整理  複数の意見・考えを議論して整理	C3 協働制作  グループでの分担、協働による作品の制作	C4 学校の壁を越えた学習  遠隔地や海外の学校等との交流授業

「学びのイノベーション事業」実践研究報告書より抜粋

レベル1（小学校下学期）で育成を目指す情報活用能力

尾花沢市ICT教育推進委員会（令和3年6月）

A 活動スキル	B 探究スキル	C プログラミング	D 情報モラル
A1【記録と編集】写真や動画の撮影、音声の記録ができる	B1【取捨選択】課題解決に役立つ情報を選ぶことができる	C1【物事の分解】物事を部品に分けて捉えることができる	D1【コミュニケーション】相手によって受け止め方が違うことを理解する
A2【PCの操作】ローマ字で文字入力ができる	B2【読み取り】一つの情報から視点を持って情報を読み取れる	C2【情報の分類】情報を決められた観点で分類・整理できる	D2【法と権利】人の作った作品や情報を大切にする
A3【ウェブ検索】キーワードで検索できる	B3【創造】情報から分かったことをまとめられる	C3【情報の関係付け】情報と情報の間にある関係に気付く	D3【健康と安全】情報機器を使ってよい場所や時間を守る
A4【図書利用】図書館内にある本を見付けることができる	B4【伝達内容の構成】話の順番を組立てることができる	C4【問題解決の手順】問題解決の流れを手順に表すことができる	D4【ルール・マナー】ルールやマナーが必要であることを理解する
A5【インタビュー】質問を用意することができる	B5【表現の工夫】メディアに応じ工夫した表現ができる	C5【試行錯誤】うまくいかない時に繰り返し取り組もうとする	D5【セキュリティ】パスワードを安全に管理する
A6【アンケート】何を聞くか質問を考えられる	B6【相手意識】相手を意識して伝え方を工夫する	C6【データの傾向】大まかなデータの傾向を見いだすことができる	D6【個人情報】自他の情報が伝わる範囲を考えて行動する
A7【メモ】大事だと思ったところを短い言葉で書くことができる	B7【学習計画】決められた計画に見通しを持つことができる	C7【情報技術の将来】新しい情報技術がどんなものかを知る	
A8【口頭発表】（物を見せながら）大きな声で分かりやすく話すことができる	B8【評価と改善】学びを振り返ることができる	※「情報活用能力学習目標リスト」では、レベル1（小学校下学期）、レベル2（小学校上学年）、レベル3（中学校）と発達段階に応じて整理している	

デジタル人材につながる尾花沢市内小・中学校で育成を目指す「情報活用能力」

平成29年度改訂学習指導要領「情報活用能力」を「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、その育成のために必要なICT環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の一層の充実を図ることとした

課題を解決したり、新たな価値を創造したりするために必要な情報を収集し、それらの情報を活用しながら、他者と協働して行われる学習活動の充実

- 尾花沢市の児童の実情
R4全国学力・学習状況調査
- 授業でICT機器を週3回以上使っている児童の割合が低い。
 - 1日当たり30分以上ICT機器を、勉強のために使っている児童の割合が低い。

ICTを活用した学習場面

A 一斉学習		B 個別学習			C 協働学習				
A1 教員による教材の提示  画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用	B1 個に応じた学習  一人一人の習熟の程度等に 応じた学習	B2 調査活動  インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録	B3 思考を深める学習  シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習	B4 表現・制作  マルチメディアを用いた資料、作品の制作	B5 家庭学習  情報端末の持ち帰りによる家庭学習	C1 発表や話し合い  グループや学級全体での発表・話し合い	C2 協働での意見整理  複数の意見・考えを議論して整理	C3 協働制作  グループでの分担、協働による作品の制作	C4 学校の壁を超えた学習  遠隔地や海外の学校等との交流授業

「学びのイノベーション事業」実践研究報告書より抜粋

レベル2（小学校上半年）で育成を目指す情報活用能力

尾花沢市ICT教育推進委員会（令和3年6月）

A 活動スキル	B 探究スキル	C プログラミング	D 情報モラル
A1【記録と編集】写真や映像、音声の加工・編集ができる	B1【取捨選択】選んだ情報を説明することができる	C1【物事の分解】部品を組み合わせることで物事を表現できる	D1【コミュニケーション】発信する情報に責任を持つ
A2【PCの操作】ファイルの管理ができる	B2【読み取り】複数情報から共通・相違点を見つけられる	C2【情報の分類】観点を考えて情報を分類できる	D2【法と権利】著作権や肖像権に留意して情報を扱う
A3【ウェブ検索】サイトの構造を理解して情報を見つけられる	B3【創造】情報を組み合わせることで新たな意味を見いだす	C3【情報の関係付け】情報と情報の関係を図やプログラムで表現できる	D3【健康と安全】情報機器を使う場所や時間を自分で管理できる
A4【図書利用】目次や索引を利用して情報を見つけられる	B4【伝達内容の構成】相手を説得するために論理を組立てられる	C4【問題解決の手順】問題解決の手続きを順序・繰り返し・分岐などを組み合わせて表現できる	D4【ルール・マナー】ルールやマナーを相手と一緒に作る
A5【インタビュー】下調べをしてインタビューするべき質問を選ぶことができる	B5【表現の工夫】伝えたいことに応じて表現を工夫できる	C5【試行錯誤】施策やシミュレーションを通して問題解決の方向性や改善策を見いだす	D5【セキュリティ】なりすましやウィルスなどの危険を理解する
A6【アンケート】目的に合った質問の形式や内容を考えられる	B6【相手意識】相手の反応を見て伝え方や内容を工夫する	C6【データの傾向】データの変化を捉えて説明できる	D6【個人情報】自他の情報が伝わる範囲を考えて行動する
A7【メモ】箇条書き・単語でポイントをまとめる	B7【学習計画】自分で計画を立てることができる	C7【情報技術の将来】新しい情報技術にどう関わるか説明できる	D7【情報社会の将来】情報社会の特色を理解する
A8【口頭発表】身振りや声の抑揚など伝え方を工夫する	B8【評価と改善】振り返りを基に次やってみたいことを考える	※「情報活用能力学習目標リスト」では、レベル1（小学校下学年）、レベル2（小学校上半年）、レベル3（中学校）と発達段階に応じて整理している	

デジタル人材につながる尾花沢市内小・中学校で育成を目指す「情報活用能力」

平成29年度改訂学習指導要領「**情報活用能力**」を「**学習の基盤となる資質・能力**」と位置付け、その育成のために必要なICT環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の一層の充実を図ることとした

課題を解決したり、新たな価値を創造したりするために必要な情報を収集し、それらの情報を活用しながら、他者と協働して行われる学習活動の充実

尾花沢市の児童の実情
R4全国学力・学習状況調査

- 授業でICT機器を週3回以上使っている児童の割合が低い。
- 1日当たり30分以上ICT機器を、勉強のために使っている児童の割合が低い。

ICTを活用した学習場面

A 一斉学習		B 個別学習			C 協働学習				
A1 教員による教材の提示  画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用	B1 個に応じた学習  一人一人の習熟の程度等に 応じた学習	B2 調査活動  インターネットを用いた情報 収集、写真や動画等による記録	B3 思考を深める学習  シミュレーションなどのデジ タル教材を用いた思考を深める 学習	B4 表現・制作  マルチメディアを用いた資料、 作品の制作	B5 家庭学習  情報端末の持ち帰りによる家 庭学習	C1 発表や話し合い  グループや学級全体での発 表・話し合い	C2 協働での意見整理  複数の意見・考えを議論して 整理	C3 協働制作  グループでの分担、協働によ る作品の制作	C4 学校の壁を超えた学習  遠隔地や海外の学校等との 交流授業

「学びのイノベーション事業」実践研究報告書より抜粋

レベル3（中学校）で育成を目指す情報活用能力

尾花沢市ICT教育推進委員会（令和3年6月）

A 活動スキル	B 探究スキル	C プログラミング	D 情報モラル
A1【記録と編集】 目的や情報の種類に応じてアプリケーションを選択、活用できる	B1【取捨選択】 信頼性や信ぴょう性を考えて情報を選ぶことができる	C1【物事の分解】 物事の全体をシステム（部品の関係）で捉えることができる	D1【コミュニケーション】 ネットワークの公共性を意識して行動する
A2【PCの操作】 クラウド等を用いた共同作業のためにコンピュータを活用できる	B2【読み取り】 複数情報から矛盾点や欠けている情報を見付けられる	C2【情報の分類】 情報の属性を意識して構造的に捉えることができる	D2【法と権利】 情報の保護や取り扱いに関する法律を理解する
A3【ウェブ検索】 AND、ORなど条件を工夫して検索できる	B3【創造】 情報を多面的に見て新たなアイデアを見いだす	C3【情報の関係付け】 情報の規則性、順序性、一般性を図やプログラムで表現できる	D3【健康と安全】 健康に配慮して情報機器・サービスを活用することができる
A4【図書利用】 図書・新聞データベースを活用して必要な本や記事を見付けられる	B4【伝達内容の構成】 アウトライン（目次）をつくり、内容を構成することができる	C4【問題解決の手順】 問題解決の手続きをアクティビティ図等を用いてモデル化できる	D4【ルール・マナー】 ルールやマナーを創造・遵守することで問題を解決しようとする
A5【インタビュー】 インタビュアーの考えを引き出すために追加の質問ができる	B5【表現の工夫】 メディアを組み合わせることで表現を工夫できる	C5【試行錯誤】 条件を切り分け、解決方法を論理的に考えて取り組む（デバック）	D5【セキュリティ】 サイバーセキュリティの重要性を理解する
A6【アンケート】 集計・分析できるように適切な設問分や選択肢を作成できる	B6【相手意識】 相手の関心や前提知識に配慮して伝え方や内容を工夫できる	C6【データの傾向】 表やグラフを用いてデータを統計的に処理することができる	D6【個人情報】 自他の情報を相手や範囲を考えて管理する
A7【メモ】 書く場所や矢印・強調などで工夫する	B7【学習計画】 グループ内で役割分担を考えて計画を立てることができる	C7【情報技術の将来】 新しい情報技術が社会や産業にどう活用されているか説明できる	D7【情報社会の将来】 情報社会の中でどう生きていくか説明できる
A8【口頭発表】 （資料を活用しながら）徴収とのやりとりなどの伝え方を工夫する	B8【評価と改善】 振り返り基に改善策を立てられる	※「情報活用能力学習目標リスト」では、レベル1（小学校下学年）、レベル2（小学校上学年）、レベル3（中学校）と発達段階に応じて整理している	